

# 屋久島高演劇部 全国へ



最優秀賞を受賞して記念撮影する屋久島高校演劇部のメンバー。中央は顧問の上田美和教諭＝23日、いずれも福岡県筑後市、同部提供

## 屋久杉テーマ 九州大会で最優秀賞



九州大会の舞台に立つ屋久島高校演劇部の生徒たち＝22日

かつて屋久島で続いた屋久杉伐採の歴史を伝える県立屋久島高校演劇部の舞台

作品「ジョン・デンバーへの手紙」が23日、福岡県筑後市であった九州高等学校演劇研究大会で最優秀賞を受賞した。伐採の記録映画を主題にした物語で、屋久島の世界遺産登録25周年を記念して制作。九州大会での最優秀賞は同校初で、来年度に佐賀県である全国高等学校総合文化祭に出場する。

大伐採が続く1970年代を舞台に、その惨状を告発する記録映画「屋久島からの報告」（78年）の制作に奔走した教師や生徒の実話を基にした物語だ。映画に曲を無償提供してもらったため、米カントリー歌手に送った手紙の内容に沿って、江戸時代から始まった伐採の歴史を紹介。映画などの反対運動で伐採が止まり、93年に屋久島が世界遺産になったと結ばれる。

大会には九州各地から11代表が参加。表彰式後、講師として招かれた劇作家の平田オリザ氏は「自然保護だけでなく、（国を支えた）林業の誇りも含めた二面性がうまく伝わってきた」。全国大会に向けて「今のまま奇をてらわず、島の子どもたちの良さをストレートに演じてほしい」とアドバイスしたという。

同部顧問の上田美和教諭は、映画を制作した「屋久島の自然を記録する会」元代表の大山勇作さん(74)から話を聞いて脚本を書いた。「島の経済が伐採で潤っていた時期に、白眼視されることも覚悟で反対運動をした先輩方への畏敬の念を込めました」。離島で学ぶ若者の視点で故郷を掘り下げ、「世界遺産の島の教訓を全国に伝えたい」という。(屋久島通信員・武田剛)